

## 682. 彷徨函数 (random functions)

北川 敏 月 (阪大)

§1. 緒言: Brown 運動<sup>(1)</sup> = 刺戟サレテ産ミ出サレタ彷徨函数<sup>(2)</sup>, 理論=ツイテハ, Paley - Wiener<sup>(3)</sup>, 著=櫻レタ解説カアル。又ジ遺憾ナコト=ハ, ソコデ展開スル理論=ハ, 彼等, 云フ如ク,<sup>(4)</sup>

- 
- (1) Perrin: *Les Atomes*. 又ハ植村, 玉虫, 三島共譯: 原子: 第二章及ビ第四章。コレヲ [原] ヲ引用スル。又, 物理学文献抄, II, 土井不憂: Brown 運動 = 本シイ。
- (2) 橋島浩: 物理学 = 於ケル統計的現象 (岩波科学文献抄) = 於イテ *Schwankung* (*fluctuation*) / 譯 =, 彷徨偏倚ヲ因ヒラレテタ。ソレ = ナラヒ, 假リ = 彷徨ヲ用ヒルコト = シタ。同書, 序言, 跋ヲ参照セラレヨ。
- (3) *Fourier Transforms in the complex domain*: *Am. Math. Coll. Pub. Vol. XIX*. 特 = *Chap. IX* 及ビ *X*. コレヲ [F] ヲ引用ス。
- (4) [F], p. 141.

"the disadvantage of being most non-heuristic and of demanding from the reader the patience to take on faith the necessity of a large amount of material whose justification is only given after the completion of the argument" が +イ 譯デモ +イ。モット heuristic + 方法が アツテ然ルベキアアル。

Brown 運動ノ錯雜ナル、個々、微粒子 = ツイテ、軌道ノ追跡ヲ出來ル限リ精細 = シマウトシテモソレハ無意味デアツテ、<sup>(5)</sup> 統計力学ノ對象トシテ、始メテ意味ヲモツ、經驗的 = ハ、実験サレタ數多クノ軌道 = ツイテノ、或ル物理的量ノ平均値ガ問題デアアル。茲ニ物理學者ノイフ數多クト云フ、ハ、數學的 = 云フ凡ヅラ = 相應スル。一粒子ノ軌道方程

(5) [原], p. 115 - 176 = 云フ"粒子軌道ノ錯雜ハ實ニ多様ナ、又共ニ変化ハ迅速デアアルカラ、到底之レヲ際ツケルコトハ不可能デアリ、又實際測ラレタル軌道ハ事實ヨリモ遠カニ簡單且ツ小デアアル。又一粒子ノ見掛ケノ平均速度モ與ヘラレタ時間内ニ於イテハ、ソノ大イサ方向共ニ激シク変リ、觀察時間ヲ如何ニ短縮シテモ決シテ一定ノ極限ニ向フモノデハナイ。……我々ハタトハ近似的ニセヨ軌道ノドノ点ニ對シテモ切線ヲ文マルコトモ出來ナイ、而シテコレヨリ我々が微分係數ヲモタナイ連続函數ヲ考ヘズニ真ニ自然ナル場合デアアル。"

式ハ  $x = x(t)$ ,  $y = y(t)$ ,  $z = z(t)$  ( $t$ ハ時間) トシ  
 テ與ヘラレルデアラウ。可能ナルスベテノ軌道函数  $x = x(t)$   
 イテ,  $x(t)$  ノ汎函数ノ平均値ガ問題ニナル。<sup>(6)</sup> コレハ、可能  
 ナルスベテノ軌道函数ノツクル空間ニ於イテ、測度ノ概念  
 テ導入スレコトト同問題デアラウ。但シ、通常ノ解析ノ對  
 象トナルタメニハ、ソノ測度ハ、完全加法的デアアルコトガ  
 望マシイ。

斯クシテ、彷徨函数ノ理論ガ、要スルニ一ツノ積分論  
 デアルベキコトヲ知ルノデアアルガ、<sup>(7)</sup> ソウシテ理論ガ何等カノ  
 方法ヲ建設サレタ場合、実験的ニ確立サレタ統計的法则<sup>(8)</sup>  
 ソノ理論カラ導カレタケレバ無意味デアアルコトハ敢テ断ルマテ  
 エナイ。

前述ノ Paley - Wiener ノ所謂 "disadvantage"  
 ノ除カレルコトヲ第一ニ希望スル立場ニアツテハ、Wiener  
 ノコノ方面ノ最初ノ論文<sup>(9)</sup>ニ戻ルニ如クハナイ。E. Hopfガ

(6)  $y(t) = \dot{x}(t)$ ニ同シ。以下  $x(t) = \dot{y}(t)$ ニ述ベル。粒  
 子ニハ重量ガアルタメ鉛直ノ方向ハ別デアアル。(原), p. 177.

(7) It will be seen that the theory of random  
 functions is in essentials a theory of inte-  
 gration in function space. ([F], p. 140)

(8) Perrinノ実験等。コレハ續テ述ベル。

(9) Differential space, Journ. Math. and Phys.  
 Vol. II, NO. 3. (1923)

ソノ著<sup>(10)</sup> = 於テ、ソノ方法ノ荒筋ヲ、ヨリ modern ナ形ヲ述ベテ居ル。私ハ此處ニ、其處ヲ省略サレタ証明ヲ補ヒテラ、紹介ヲ試ミヨウト思フ。

§2. 構成的方法<sup>(11)</sup>ノ概要。  $-\infty < t < \infty$  デ定義サレタ實數値連続函数<sup>(12)</sup>  $x(t)$  = 對シテ、 $x(0) = 0$  ナルトキ、區間  $(\delta, t) = A$  = 對シテ  $\Phi(A) = x(t) - x(\delta)$  ト定義スル。コノ場合、点函数  $x$  ト區間函数  $\Phi$  トノ對應が一對一ナル。今考ヘタマウナ區間全部ノ集合ハ、集合体<sup>(13)</sup> (Mengenkörper) ヲツクリ、 $\Phi$  ハソコヲ加法的 (finite additive) デアル。吾カハ、E. H. Hopf = 従ヒテラエル  $\Phi$  ノツクリ函数空間 =, Lebesgue 測度ヲ入レルコトヲ問題 = スレノデアル。

- (10) Ergodentheorie, Ergeb. Math. und ihr. Grenzgebiete (1937). 特ニ、§16. Masstheorie im Raum der additiven Mengenfunktionen. コレヲ [E] ヲ引用ス。
- (11) 假リ = コノ様ナ名ヲツケタ。[F] ノ方法 = 對比シテ。
- (12) [E] = ハ、連続トイフ假定ガ著イテナイ。以下ノ議論ガハコノ性質ヲ用ヒタケレバナラナイコトハ明ラカデアアル。(或ハ、必然的 = 導カレルコトデアアルカモ知レナイ)。[F], Theorem XLIII, p. 148 参照。又 [F], p. 151 = "In all that follows, we take  $\psi(x, \alpha)$  to be continuous" トアル。
- (13) 或ル集合系ガアツテ、ソレノ任意ノ二ツノ元  $\alpha, \beta$  ト共 =,  $\alpha + \beta$   $\alpha\beta$ ,  $\alpha - \beta$  ( $\alpha > \beta$  トキ),  $\beta - \alpha$  ( $\beta > \alpha$  トキ) ヲ含ムトキ、Mengenkörper ト云フ。コレヲ集合体ト譯シタマフ。

吾々ハ、次ノメウナ構成的方法ヲ採ラウ。

[I]  $\mathcal{R}$ ノツツル或ル集合体  $\mathcal{R}$ ヲ適當ニ選ビ此處ニ、finite additive + 測度  $m$ ヲ、先ツ定義スル。

[II]  $\mathcal{R}$ ヲ Borel 集合体  $B\mathcal{R}$  (完全加法的集合体) <sup>(14)</sup>ニマテ拡張シテ、 $B\mathcal{R}$ ニテ完全加法的 (complete by additive) ナリ、 $\mathcal{R}$ ニハ  $m$ ト一致スルメウナ測度  $m^*$ ヲ求メル。

§ 3. 加法的測度ノ導入。  $\mathcal{R}$ ハ点  $p, p', \dots$ カラナル空間、 $\mathcal{R}$ ハ  $\mathcal{R}$ ノ部分集合ニヨリテ形成サレタ或ル集合体トスル。  $\mathcal{R}$ ガ実数全部ノ集合、 $K$ ガ § 2ニ述ベタ区間ノツツル集合体ナリ、吾々、要求スル場合ナリ、茲ニハ、コノメウナ制限ヲ設ケズ、一般的ニ結果ヲ述ベヨウ。今  $K$ ニ属スルルベテノ集合ニ對シテ定義サレタ加法的ニ集合函数  $\mathcal{M}(A)$ ヲ考察ノ對象トスル。カナル  $\mathcal{M}$ 全部ノツツル空間ヲ  $\mathcal{S}$ トスル。

$\mathcal{R}$ カラ、相素ナル  $A_1, A_2, \dots, A_n$ ヲ選ビ、 $\alpha_i = \mathcal{M}(A_i)$  ( $i = 1, 2, \dots, n$ )ナル實数ノ組ヲ考ヘル。 $n$ 次元ノ  $n$ リノ空間  $R_n$ ニ属スル  $O_n$ ナル可測集合ヲ與フルトキ、 $\{\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_n\} \subset O_n$ ナル様ニ  $\mathcal{S}$ ノ

---

(14) 集合体ガ、可附屬無限個ノソレニ属スル原集合ノ和集合ヲ包含ムトキ、コレヲ Borelscher (od. absolut additiver) Mengenkörper トイフ。

部分集合ヲ以テ表ハサウ。

コノ様ナ方法ヲツクラレタメ全部ノ集合ハ、一ツノ集合  
体ヲツクル。ソレヲ示スノニハ

$$\alpha = [\mathcal{O}; \{\mathcal{O}(A_1), \mathcal{O}(A_2), \dots, \mathcal{O}(A_n)\} \subset \mathcal{O}_x] \dots (15)$$

$$\beta = [\mathcal{O}; \{\mathcal{O}(B_1), \mathcal{O}(B_2), \dots, \mathcal{O}(B_m)\} \subset \mathcal{O}_m] \dots (2)$$

ヲ考ヘル。  $A_i, B_j$  = 共通ノ部分分割ヲ施シテ、相奏ナル

$C_i (i=1, 2, \dots, N)$  ヲ得ヌトスル。(16) コノトキ

$$\alpha = [\mathcal{O}; \{\mathcal{O}(C_1), \mathcal{O}(C_2), \dots, \mathcal{O}(C_N)\} \subset \mathcal{O}_N] \dots (3)$$

$$\beta = [\mathcal{O}; \{\mathcal{O}(C_1), \mathcal{O}(C_2), \dots, \mathcal{O}(C_N)\} \subset \mathcal{O}'_N] \dots (4)$$

トモ書カレル。斯ク志ハストキ、 $\alpha + \beta$ ,  $\alpha - \beta$ ,

$\alpha - \beta$  ( $\alpha > \beta$  ノトキ) ガ又、吾々ノ集合体ニ属スルコトハ

明ラカデアル。(17)

コノ集合体ニ加法的集合体ヲ導入スル：ソノニメ、任  
意ノ実数  $\alpha$  及ビ  $K$  = 属スル任意  $A$  = 對シテ定義セラルベク實數値

函数  $w(x, A)$  ヲ考ヘ  $w \geq 0$ .  $\int_{-\infty}^{\infty} w(x, A) dx = 1$  (スベ

(15)  $\in(x)$  ナル性質ヲ有スル  $X$  ノ全部ヲ  $[X, \in(x)]$  ト書ク。

(16)  $A_i$  同志,  $B_j$  同志ハ火々、假定ニヨリ共通点ハナシ。シカシ、

$A_i$  ト  $B_j$  トニハ共通点ガアルカモ知レナイ。共通分割ニヨル

$C_\nu (\nu=1, 2, \dots, N)$  ヲツクルトキ、各  $A_i$  ハ若干個ノ  $C_\nu$  ノ和

集合トシテ表ハサレル。但シ  $C_i$  ノうちノアルモノハ  $\sum A_i =$  全

マヌコトモアラウ。  $\{B_j\}$  = 同シテモ同様。

(17)  $\mathcal{O}_N + \mathcal{O}'_N$ ,  $\mathcal{O}_N \mathcal{O}'_N$ ,  $\mathcal{O}_N - \mathcal{O}'_N$  ナル  $\mathcal{O}'_N - \mathcal{O}_N$  ガ又  $R_N$  ガ可測  
ナルガ故ニ。

ヲ  $A \in K = \cup \text{イテ}$  トスル。ソシテ (1) デ 與ヘラレタ  $\alpha =$   
對シ

$$m(\alpha) = \int \int \dots \int_{0_n} w(x_1, A_1) w(x_2, A_2) \dots w(x_n, A_n) dx_1 \dots dx_n \quad (5)$$

ヲ  $m(\alpha)$  ヲ 定義スル。

然ルニ同ジ  $\alpha \in$ , 例ヘバ (1) ト (3) ト ヲ 見ル 如ク 違ツタ  
定義ノ 仕方 ガ アル。 定義ノ 仕方 ハ 違ツテ  $m(\alpha)$  ノ  $\in$  ノ  
ハ 一致セ ンバ ナラヌ。

コノ タノ 必充條件ハ,  $AB = 0 =$  對シ 常ニ

$$w(x, A+B) = \int_{-\infty}^{\infty} w(t, A) w(x-t, B) dt \quad (6)$$

ナル 函数 方程式 ヲ 満足スレ コト ガ アル。 尚、 $m$  が 加法的  
測度ニナル コトハ, 明カ デ アル。

コレ 等ハ, 一般 的ニ 結果 ガ アル。 吾々ハ §2 デ 掲ゲタ 問  
題 [I] ニ 歸ラシ, §1 ノ 終リニ 述べタ 如ク, 吾々ノ 理論ハ  
実験<sup>(19)</sup>ノ 結果ヲ 導カケレバ ナラヌ。 実験ノ 示スト コロヲ 従  
フニ  $x = \text{ハ}$ , (5) = 於テ,  $w(x, A) = e^{-\frac{x^2}{M(A)}/\sqrt{M(A)}}$  ニ ト

(18) 証明ハ [E] = 妥シク 書イテ アル。  $A_i (i=1, 2, \dots, n)$

ヲ  $C_\nu (\nu=1, 2, \dots, N)$  ト シ ヲ ル トキ, (1), (3) 各々 =  
ヨリ 夫々  $m(\alpha)$  ガ 定義 サレレガ, ソレガ 同ジ 値ヲ モツ  
コトヲ 示セバ ヲイ。

(19) ハ 次頁ニ。

セネバナラス。<sup>(20)</sup> ( $M(A) = M([a, b]) = b - a$ トス) カ  
 ヲ定義サレタ  $W$  ハ 函数方程式 (6) ヲ充テスガ故ニ, 加法的  
 + 測度ヲ得タコトニナル。即チ問題 I ハ 肯定的ニ解決サレタ。  
 (1) ノ如ク定義サレタ  $\alpha$  ヲ基本圖形ト呼ンデ宜シカラ  
 シ。

#### §4. 彷徨函数ニ関スル Hölder 1 條件。

問題 [II] = 進ム前ニ, 準備ヲセネバナラス,

定理 1.  $\varepsilon > 0, \eta > 0, C > 0$  ヲ任意ニ與ヘタトスル。  
 然ルトキ, 次ノ性質 10-30 ヲ有スルヤウナ, 自然數

(19) 例ハバ, 顯微鏡ノ視野ニ於イテ, アル適當ニ選ンダ同時  
 テヲ隔テテ, 同シ粒子ノ位置ヲシルス, 例ハバ  $x$ -成分ニ  
 ヲイテ,  $x_i(t_k)$  ヲ測定ス。コノヤウナ實驗ヲ繰返シテ  
 $\{x_i(t_k)\} (k=0, 1, 2, \dots, N, i=1, 2, \dots, M)$  ヲ得ル。  
 Perrin ノ實驗カラハ, 次ノ様ニ漸近的法則ヲ得ラレル。

$$I. \sum_{i=1}^M \{x_i(t_k)\}^2 \sim k, \text{ 略シ } k = \text{正比例スル。}$$

II. 次  $\text{time-interval } (t_k, t_{k+1}) = \Delta t$  於ケル  
 $\{x_i(t_{k+1}) - x_i(t_k)\} (i=1, 2, \dots, M)$  ハ, 略シ Gauss  
 分布ニ從フ。ソノ分布ノ基準ハ  $\Delta t = \text{depend スル。}$

III.  $\Delta t = \text{任意ニ選ンダ } \text{time-intervals} = \text{於ケル運動ハ,}$   
 独立事象ト見做サレル。

(20) カク定義スルトキ, 脚註 (19) ガ述べタ法則 II, III ヲ念シ  
 テ其レコトガワカル。コクスルトキ I<sup>\*</sup> ハ, 必然的結果トナル  
 コトハ後ヲ示ス。



$N(\varepsilon, \eta, C)$ , 正数  $C'(\varepsilon, \eta, C)$  及ビ高々可降無限個  
ノ基本圖形列  $\{\alpha_i\}$  ( $i=1, 2, 3, \dots$ ) が選ビ出レル,  
即チ

$$1^\circ) \sum_{i=1}^{\infty} m(\alpha_i) < \eta \dots\dots\dots (7)$$

$$2^\circ) \int \sum_{i=1}^{\infty} \alpha_i = \text{属スル凡テ, } \textcircled{A} \text{ (即チ函数 } x) =$$

共通 = , 指数  $\frac{1}{2} - \varepsilon$  次ノ Hölder ノ条件が充テラ  
中ル:  $|t_2 - t_1| \leq \frac{1}{2} N(\varepsilon, \eta, C)$  ナル限リ,  $-\infty < t_1,$   
 $t_2 < \infty = \tau$

$$|x(t_2) - x(t_1)| \leq C |t_2 - t_1|^{\frac{1}{2} - \varepsilon} \{1 + |t_1|^{2\varepsilon} + |t_2|^{2\varepsilon}\} \dots\dots (8)$$

$$3^\circ) \int \sum_{i=1}^{\infty} \alpha_i = \text{属スル凡ベテ, } \textcircled{A} \text{ (即チ } x) = \text{共}$$

通 = ,  $-\infty < t < \infty = \tau$

$$|x(t)| \leq C' \left\{ |t|^{\frac{1}{2} + \varepsilon} + 1 \right\} \dots\dots\dots (9)$$

証明:  $\frac{1}{2} - \varepsilon = \lambda$  ト書ク。証明ヲ三段ニ分ツ。

第一段。與ハラレタ  $C$  トハ別ニ,  $C, > 0$  便宜上考ヘ  
ル。整数  $m, n, k$  ヲ定メテ

$$\begin{aligned} & \left| x\left(m + \frac{k+1}{2^n}\right) - x\left(m + \frac{k}{2^n}\right) \right| \\ & \geq C, 2^{-\lambda n} \left\{ 1 + \left| m + \frac{k+1}{2^n} \right|^{2\varepsilon} + \left| m + \frac{k}{2^n} \right|^{2\varepsilon} \right\} \dots\dots (10) \end{aligned}$$

ヲ満足スル  $m, n, k$  ナ  $x$  即チ  $\textcircled{A}$  ノ集合ヲ  $\int$  ニ考ヘル。

コレハ基本圖形デアルカラ、ソノ測度<sup>(21)</sup>ハ §3 = 於イテ  
與ヘタ、尙單ナ計算ノ後ワカル如ク

$$\exp\left(-\frac{C_1^2 2^{(1-2\lambda)n}}{2\pi} \left(1 + \left|m + \frac{k}{2^n}\right|^{2\varepsilon} + \left|m + \frac{k+1}{2^n}\right|^{2\varepsilon}\right)\right) \dots (11)$$

次ニ、 $m, n, k$ ノうち、 $n$ ガケ固定シテ、 $-\infty < m < \infty$ 、  
 $0 \leq k < 2^n$  + 整数  $m, k$ ノドレカノ組ニ對シテ (10)  
+ 關係ノ成立スルマウナ  $x$ ノ集合ヲ考ヘルト、コレハ可附  
番無限個ノ基本圖形ノ和集合デアツテ、ソノ測度ノ和ハ、  
(11) + 項ヲ、 $-\infty < m < \infty$ 、 $0 \leq k < 2^n$ ノ範圍ヲ總和  
シタモノニナル。コノ總和ハ、

$$C_2 \frac{2^n}{2^{(1-2\lambda)n} \left(\frac{2\varepsilon}{2\varepsilon-1} + 1\right)} \exp\left\{-\frac{C_1^2 2^{(1-2\lambda)n}}{2\pi}\right\} \dots (12)$$

ヲ超ヘナシ。但シコトニ、 $C_2$ ハ  $\varepsilon$ ト  $C_1$ トニ關係スルカ  
 $n$ ニ無關係ニイラベル常数。従ツテ、アル自然數  $N$ ヲ與フ  
ルトキ、(10)ノ關係ガ、 $n \geq N$ 、 $-\infty < m < \infty$ 、 $0 \leq k < 2^n$   
ノ範圍ニアルドレカノ  $(m, n, k)$ ノ組ニ對シテ成立スル  
マウナ  $x$ ノ全部ノ集合ハ、可附番個ノ基本圖形ノ和集合ニ含

(21) 吾々ハ、(E)ニ於テ、 $w(x, A) = e^{-\frac{x^2}{M(A)}} / \sqrt{M(A)\pi}$ トシタカラ、

コノ測度ハ、コノ際  $M(A) = 2^{-n}$ ニ注意シテ、

$$\sqrt{\frac{2^n}{\pi}} \left\{ \int_p^\infty e^{-2^n x^2} dx + \int_{-\infty}^{-p} e^{-2^n x^2} dx \right\}$$

ガ與ヘラレル。但シ

$$p = C_1 2^{-n} \left\{ 1 + \left|m + \frac{k+1}{2^n}\right|^{2\varepsilon} + \left|m + \frac{k}{2^n}\right|^{2\varepsilon} \right\}$$

マレ、ソレヲ基本圖形ノ測度ノ和ハ、(12)ナル項ヲ $n \geq N$ ナルスベテ $n$ ニツイテ總和シタモノニナル。 $n - 2\lambda > 0$ ナルコトカラ、ソレハ收斂スル。従ツテ、 $\eta > 0$ ヲ勝手ニ與ヘテ $\epsilon$ 、 $N_1(\epsilon, \eta, C_1)$ ヲ充分大キクトレバ $N_1(\epsilon, \eta, C_1)$ ヨリ大ナル $n$ ニツイテノ總和ヲ $\eta$ ヨリ小ナラシム得ル。

コノコトハ、定理1ノ假定 $\epsilon, \eta = \epsilon$ ニ於テ、(但シ $C$ ノ代リ $C_1 > 0$  (コレニ勝手ニ與ヘテヨイ)ヲ與フルトキ)主張1°ト、ソレカラ或ル制限ノメトテ主張2°トが成立スルコトヲ意味スル。ソノ制限トイフノハ、(8)式ノ成立ハ、 $C$ ノ代リ $C_1$ ヲ用ぬ; 又 $t_2 = m + \frac{k+1}{2^n}$ ,  $t_1 = m + \frac{k}{2^n}$ , ( $m$ ハ任意ノ整数,  $n \geq N_1(\epsilon, \eta, C_1)$ ,  $0 \leq k < 2^n$ )ニ對シテノミ証明シレバキルコトヲ意味スル。ソノ制限ヲ取除クコトが第二段ナル。

第二段、今スベテノ實數ヲ二進法ニ展開スル。

$$t_1 = a_{-k} a_{-k+1} \dots a_0, a_1 a_2 \dots a_n a_{n+1} \dots$$

$$t_2 = b_{-k} b_{-k+1} \dots b_0, b_1 b_2 \dots b_n b_{n+1} \dots$$

$0 < t_2 - t_1 \leq \frac{1}{2^n}$ ,  $n \geq N_1(\epsilon, \eta, C_1)$ トスル。従ツテ

$k = l \neq$ ,  $l \leq n-1$ ニ對シテハ $a_l = b_l$ . 点列

$$t_2^m = a_{-k} a_{-k+1} \dots a_0, a_1 a_2 \dots a_{n-1} a_n a_{n+1} \dots a_m$$

$$t_1^m = a_{-k} a_{-k+1} \dots a_0, a_1 a_2 \dots a_{n-1} b_n b_{n+1} \dots b_m$$

ヲ考ヘル。 $x(t)$ ハ連続ナル

$$x(t_i) = \sum_{m=n}^{\infty} \left\{ x(t_i^{m+1}) - x(t_i^m) \right\} + x(t_i^n) \quad (i=1,2)$$

$t_i^m$  ハミチ、第一段ヲ考ヘタ分点ガアルカラ、第一段ノ結果ト上式トカラ

$$|x(t_2) - x(t_1)| < \frac{4C_1}{1-2^{-\lambda}} 2^{-\lambda n} \left\{ 1 + |t_1|^{2\varepsilon} + |t_2|^{2\varepsilon} \right\}$$

コノ  $t_2 - t_1 = 2^{-n}$ . 依ツテ、定理1ノ假定ノ  $C$ ヲ勝手ニ與ヘタトキ、 $C_1 = C(1 - 2^{-\lambda})/4 = 1$ トツテ、コノ  $C_1 = 1$ ニツキ第一段ヲ証明シテオケバ、結局定理1ノ  $1^0 - 2^0$ カ得ラレタコトナル。

第三段.  $3^0$ ヲ証明スル。  $t^* = 1/2^{N(\varepsilon, \lambda, C)}$ トス。  $t > t^*$ トスル ( $t < -t^*$ ノトキモ同様) 區間  $[t, t^*]$ ヲ等分シ、 $t_p = t$ ,  $t_0 = 1$ トシテ

$$x(t) - x(t^*) = \sum_{i=1}^p \{x(t_i) - x(t_{i-1})\}$$

ト書ク。細區間ノ長サヲ  $1/2^{N(\varepsilon, \lambda, C)}$ ヨリ小ニスル。

$\int_0^\infty \alpha_i = \infty$ ニ属スル凡ベテノ函数  $x = x(t)$ ニツイテ、第二段

ヲ証明シタ關係式(8)カラ

$$|x(t) - x(t^*)| < C \sum_{i=1}^p |t_i - t_{i-1}|^\lambda \left\{ 1 + |t_i|^{2\varepsilon} + |t_{i-1}|^{2\varepsilon} \right\}$$

ト限リナク大ナラシメル。コノ不等式カラ

$$|x(t) - x(t^*)| \leq C \lambda \int_{t^*}^t t^{\lambda-1} dt + 2C \lambda \int_0^{t^*} t^{\lambda-1+2\varepsilon} dt$$

$t < -t^*$ ニ関シテモ同様。  $|t| \leq t^*$ ニツイテハ、既ニ  $|x(t) - x(0)| = |x(t)| < C |t|^\lambda \{1 + |t|^{2\varepsilon}\}$ ヲ得テ

キル。コレヲ三ツヲ一所ニシテ (9) 式ヲ成立セシムルヤウナ  
 $C'$ ヲ見出スコトハ容易デアレ。 — 以上 —

定理2. 定理1ニ於テ得ル  $\Omega - \sum_{i=1}^{\infty} \alpha_i$  ナル集合ハ、完  
 全ニ緊ツテ (*in sich kompakt*) キル。

証明: (8) 及ビ (9) ニヨツテ明ラカ。

§5. Lebesgue 積分ノ導入。 §2ノ問題  
 [II]ノ解決ニ移ル。問題[I]ハ既ニ §3ニ解ケタ、コ  
 レノ拡張ガ問題デアルガ、次ノ定理ニヨリ肯定的ニ解決  
 ガ得ラレル。

定理3. §3ニ於イテ基本圖形全部ノツクル集合  
 体ニテ定義シタ加法的測度  $m$ ハ、 $\nu$ ノ集合体ヲ連続デアル。  
 即チ<sup>(22)</sup>基本圖形列  $\{\beta_k\}$  ( $k=1, 2, \dots$ )ガ、..... (i)

$$\beta_k \supset \beta_{k-1} \quad (k=1, 2, \dots) \quad \text{..... (ii)}$$

$\prod_{k=1}^{\infty} \beta_k = 0$ ヲ満足スレバ、當ニ  $\lim_{k \rightarrow \infty} m(\beta_k) = 0$ 。

証明:  $\beta_k = \beta_k \sum_{i=1}^{\infty} \alpha_i + \beta_k (\Omega - \sum_{i=1}^{\infty} \alpha_i)$ ト書ク。

ト云ニ、 $\{\alpha_i\}$ ハ定理1ニヨリ、アル與ヘラレタ  $\eta, \varepsilon, C$   
 ニ對シテ選ンダ基本圖形ノ系列。

$$\sum_k = \beta_k \left( \Omega - \sum_{i=1}^{\infty} \alpha_i \right)$$

(22) [E], §1 Einiges aus der allgemeinen Mass-  
 theorie, pp. 1-3. Kolmogoroff, 確率ノ本ニ  
 モノツテキト思フ。

トオク ト,  $\Sigma_1 \supset \Sigma_2 \supset \dots \supset \Sigma_n \supset \dots$  1 + ッテキル。  
 アルルガ  $\Sigma_n = 0$  = ナルカ, ソノ様ナルガナイデアアル。  
 後者, マウ + コトハ 実ハ 起ラナイ。何者, ソノカ起ツタ  
 トスレバ,  $\Sigma_n$  ノ元ノ無限系列ガ得ラレル。部分列ヲト  
 ッテ 収斂セシメ、ソレガ,  $\Omega - \sum \alpha_i =$  属スルコトヲ,  
 定理 2 = ヨツテ知ル。基本圖形ノ定義カラ  $\beta_n = \Omega$  属ス。  
 即チ  $\beta_n (\Omega - \sum \alpha_i) = \Sigma_n =$  属ス。コレガスベテノ  
 $n =$  就イテ云ハルト云フコトハ,  $\prod_{k=1}^{\infty} \Sigma_k \neq 0$ , 従ツテ

$\prod_{k=1}^{\infty} \beta_k \neq 0$  コレ矛盾。依ツテ充分大ナル  $k_0$  ヲトレバ,

$k \geq k_0 =$  對シテ  $\beta_k = \beta_k \sum_{i=1}^{\infty} \alpha_i$ ,  $\sum_{i=1}^{\infty} m(\alpha_i) < \eta = \tau$

ルヤシ =  $\{\alpha_i\}$  ヲ選ニテ居タリダカラ  $m(\beta_k) < \eta$ .

$\eta > 0$  ハ 定理 1 = テ 述べタ如ク 任意ノ 正数。故 =

$\lim_{k \rightarrow \infty} m(\beta_k) = 0$  — 以上 —

カクシテ § 2, (II) テ 目指シタ  $m^*$ -測度ヲ得ル。

以下 コレヲ 單 =  $m$ -測度ト書キ改メル。

§ 6. スペクトル解析等。完全加法的 測度  $m$   
 ヲ  $\Omega$  テ 定義シ得タカラ = ハ, Lebesgue 積分 ( $m$ -  
 積分) ノ 導入ハ, 定石ノ 教フル所 = 従ヘバヨイ。  $m$ -積分  
 ヲ、基函数ノ 積分 = ヨツテ 近似スルコト等此処 = 述ガルマ  
 ナモナイ。 Brown 運動 = 関スル 實驗ト 照應シテ 重要ナ  
 ハ, 次ノモノデアレ。

$$\int_{\Omega} (\bar{\omega})^2(A) dm = \frac{1}{2} M(A)^{(23)}, \quad \int_{\Omega} |\bar{\omega}(A)| dm = \frac{\sqrt{M(A)}}{\sqrt{\pi}}$$

更 = 進ンテ、移動群  $t \rightarrow t + \Delta t$  考ヘ、 $(\bar{\omega})_{\Delta t}(A) = \bar{\omega}(A_{\Delta t})$   
 = ヨリ、 $\Omega$ -空間ニ、流シ (Strömung) 考フルトキ、  
 コレガ狭義ノ混合型 (Mischungstypus im engeren  
 Sinne) ナマルコトヲ証明シ  $U_t F(\bar{\omega}) = F(\bar{\omega}_t)$ 、  
スペクトル 解析等ヲ建設スルコトハ、Ergodic theory  
 一般論ノ結果ヲ援用スレバヨイ。カクシテ、所謂彷徨函数  
 ノ理論ノウチ、真 = eigentlich  $t \in$ 、ハ Lebesgue  
 積分導入コトヲノ過程デアルト言ヒ得ルガアラウ。

$\Omega$  = 於ケル殆ンド凡ベテノ函数ガ、アル意味デ微分不  
 可能ト函数デアルトイフ注目スベキ結果モ、§3ノ Lebesgue  
 積分ノ導入 = ヨリ導カレルモノガアル。

$m(\Omega) = 1$  ナルガ故ニ、今マテ用ニ求ツク “測度”  
 ヲ、ヨリ印象的ナ “確率” トイフ言葉ヲ置キ換ヘラヨ  
 イ。

§7. 結ビ: Brown 運動ノ實驗ハ、Wiener  
 等ノ彷徨函数論ヲ促シタ。ソノ理論ハ、加法的集合函数  
 = 於ケル完全加法的測度論トシテ上述ノ如ク建設サレ。  
 ソノ スペクトル 解析モ、Lopof, Birkhoff 等ノ  
 ergodic theory 一般論カラ得ラレル。最近迄ニ = 卷  
 展シツ、アルトイフ渦動論 (turbulent motions)

(23) 脚註(19)ヲ述ベク統計的法則  $I^*$  = 照應スル。

ニ於テモ，コノ様ニ，適切ナ「言葉」ニ依ル整理が行ハレナ  
イモイデアラウカ。

ソレニツケテモ，コノ彷徨函数ノ理論ヲ，コトデハ全然  
算レ+カツタ一般ノ *homogeneous random process*  
ノ立場カラ見直ス必要ガアル。シカシ，Kolmogoroff,  
Levy <sup>(24)</sup> 等ノ結果ノ紹介ハ、他日ニ譲リタイ。

---

(24) *Annali della R. Scuola Norm. Sup. Pisa,*  
*Ser II, 3 (1934).*